

びくともしない人生(ルカ 6:46-49)

イエス様がこの地上に来られた理由は、罪人を生かして、それから勝利の人生を歩ませて、その結果、ほかの人も生かすことのためにこの地上に来られました。そのために一番大切なことは、イエス様のみことばを聞いて、そのみことばによって生かされることが鍵となります。それでイエス様は今日の聖書を通して、みことばを聞いたにもかかわらず行わない人がどれをほど愚かで、結局は倒れてしまうということをおっしゃいました。しかし、イエス様のことばを聞いて実行する人は、びくともしない人生となり、それが約束されて勝利の人生を歩み、びくともしない人になって人を生かす人生を生きることができるということをおっしゃっています。なので、イエス様のことばを聞いて実行するということがどういうことなのかということを正しく理解していかないとはいけません。私たちは今までの癖があるので、みことばを聞いてそれを行う、実行すると言われたときに、つい何かのルールを守り、何かの文字があればその通りに行くというイメージをするかもしれません。あるいは道徳的にそれを実行するという意味として受け止める場合もあるし、法的に、法律的にそれを受け止める場合もあるし、文字通りに何かをやらないといけないというイメージを持っていらっしゃるかもしれません。しかし、今日限り、神様のみことば、イエス様のことばを聞いてそれを実行することがどういうことなのかを正しく理解して整理して、是非その通りに行っていただき、びくともしない勝利の主人公になることを祈りたいと思います。

新約聖書の中でイエス様がさまざまなことばを宣べられました。そこでいちばん最初に宣べられたイエス様のことばが何か、思い出せるでしょうか。それが第一なのです。

1. 「悔い改めなさい。天の御国が…」

「悔い改めなさい。天の御国が近づいてきた」とおっしゃいました。それがイエス様のことばなのです。それを聞いて実行するというのはどういうことなのでしょう。いくら文字通りに守って嘘をついちゃいけない、だから嘘をつかなかった。それがみことばを守ったことではありません。そのような自分の基準で律法的にみことばを聞き行うことを考えると、信仰生活がとても疲れてしまうのです。

1) 天の御国を失った者

でもイエス様のみことばは、いちばん最初に語った内容が「悔い改めなさい。天の御国が近づいてきた」です。それを聞いて、その通りに受け入れるのであれば、なるほど、私は天の御国を失っていた者だということを認めるようになるでしょう。だからイエス様が天の御国が近づいてきたとおっしゃったわけですね。そのみことばを聞いた人は、それを受け入れた人であれば、私は今まで天の御国、天国とは無関係の人生を生きてきたんだねということを認めるしかありません。

2) 神様を離れた罪人

言葉を変えますと、私は天の御国の主である神様を離れていた罪人に間違いないんだということを認めることになるでしょう。それをみことばを聞いて実行すると言います。

3) サタンの国の者

なかなか認めたくないでしょうけれども、「悔い改めなさい。天の御国が近づいてきた」のであれば、今現在、私はサタンの国の者に間違いないのだね。天の御国の反対ですから。それがいまイエス様とともに来ているのであれば今までは何だったのか。私はサタンの国に属している者ではないのか。それを認めることになります。それがみことばを聞いたということなのです。これをこうしなさい、ああしなさい、そうした、そうしてなかった...そういう次元の話ではありません。神のみことばというのは。

4) 私は地獄

なので、残念ながら本当に認めたくないでしょうけれども、私は地獄なんだね。自分は地獄なんだねと認めざるをえないのではないのでしょうか。イエス様のみことばを聞いたとすれば。イエス様がおっしゃった

ことばは、「悔い改めなさい。天の御国が近づいた」とおっしゃったので、そのことばを聞いて実行するのであれば、私は地獄なんだと。だから今まで自分にはこういう問題があって、このような事故に遭い、幸せになんたたくてもなれないまま不幸な人生を歩いて来たんだね。そこに本当の理由があったんだ。誰かのせい、何かのせいではなくて...と認めることが実行することなのです。このみことばは実行しないまま、これを守りました、あれを頑張りましたということが信仰だと思のですが、そこにはびくともしない力などは生まれません。いつも葛藤、モヤモヤばかりで、疲れて重荷を負うしかありません。そのためにイエス様がことばを発するわけではありません。悔い改めなさい。天の御国が近づいてきたんだよ。皆さんなりに神のことばを全部脚色して見てはいけません。おっしゃった通りに聞かなければなりません。

5) 自ら幸せになれない者

だからイエス様のことばを聞いて実行するということは、なるほど、だから自分自らは幸せには絶対なれない者なんだということを素直に認めることなのです。今までは幸せのためにこういうふう、ああいうふう頑張ってきたかもしれませんが、それが無駄だったということを認めざるを得ません。また、幸せになれなかった理由を親のせい、誰かのせい、兄弟のせい、社会のせいと何かのせいにしていたそれが間違いだったということを認めることがみことばを実行することなのです。そのせいではありません。私が地獄だったわけです。生まれながら神の御怒りを受けるしかない子らとして生まれた者なのです。小さいときに虐待を受けたからそうだったわけではなくて、いじめられたからそうだったわけではありません。それは全部偽りの父の嘘なのです。みことばが聞けないように邪魔するだけで、サタンのしわざなのです。だから、ずっと過去の傷に囚われて、何かのせい、誰かのせいとそこから抜け出すことができないまま教会に通っていてもみことばが聞けないのです。これが聞こえてこないのです。暗記しても聞こえません。神のみことばそのものを誤解してしまうのです。悔い改めなさい。天の御国が近づいてきたんだ。

6) 世のいかなるものでも不可能

だからこの世にあるいかなる良いものでも、自分の人生の問題は解決不可能なんだねということを認めることになります。今まで問題の解決のためにもがいてきたこと、誰かを頼りにしようとしていたこと、逆に誰かを恨んだり、誰かのせいにしていたこと、そのすべてが全部無駄なことだったということを認めることなのです。イエス様はそのことをおっしゃっているのです。それを聞いて実行する人は、その通りに認めることです。なるほど、だから自分の人生は疲れて重荷を背負っていたんだと。

7) それでキリストが来られ

そこで、なるほど、それでキリストがこの世に来られたんだね。キリストが来られなければいけなかったんだね。キリストだけが悪魔のしわざと地獄の運命を打ち壊して、罪を打ち壊すことができる唯一の方なのだからキリストが来られるしかなかったんだね。

8) それで Only 絶対キリスト必要

自分自身はキリストしか希望がない。ただキリストだけが私の希望であり、だから私には絶対キリストが必要ですよということに気づいて、今までのあれこれを全部下ろして、イエス様をキリストとして救い主として希望としていのちとして心に受け入れること、それがみことばを聞いて実行することなのです。神のみことばはいのちなのです。私たちにいのちを与えようとして与えられることばなのです。なのに、いのちとはまったく無縁の別のことばかりこだわるように、それが神のみことばのように語っているのです。騙されないように。これこそがイエス様のことばを聞いて行うということなのです。つまり、いまイエスさまがおっしゃっているときに、ユダヤ人、パリサイ人、既存の教会の人々は、これを聞いて、一緒に聞いたにもかかわらず、イエス様を信じようとしません。だから、聞いても行わない。砂の上に家を建てるような人生を歩くしかありません。地震が起きて津波が押し寄せてくれば、その家が丈夫なのかどうか判明されるのではないのでしょうか。びくともしない人生、その第一、みことばを聞いて実行する人なのですが、悔い改めなさい。天の御国が近づいてきた。そのことばを聞いて実行することです。つまり、いのちの祝福に預かることなのです。それなしにはいくらお金があつて、いくら学歴があつて、社会的な地位があつたとしても、バックグラウンドがどうであれ人生、倒れてしまいます。レムナントの皆さん、何をどうするか以前に、びくともしない人生として整えられることが第一ではないのでしょうか。何に優先

してこだわるべきでしょうか。何を心配するべきでしょうか。就職ができないこと、進学できないこと、それを心配するべきでしょうか。自分が本当に何があっても揺れることのない、びくともしないいのちある人間なのかどうかを確認して、その上に立つことがまず先ではないでしょうか。

2. 「以前のものを捨てなさい」

それから、イエス様がおっしゃったことばはいろいろありますが、それをまとめるとこういうことになります。天の御国に入ったのであれば、以前のものは全部捨てなさいよ。これがみことばなのです。

1) ルカ 14:26-27

ルカ 14 : 26-27 を見ますと「わたしのもとに来て、自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分のいのちまでも憎まないなら、わたしの弟子になることはできません」。この憎むは、人間的に憎むという意味ではありません。今まで大事にしていた、それはこのいのちの祝福、キリストが分かってなかったときにあったものなので、それを全部切り替えなさい。捨てなさいよ。それをそのまま大事に握って、イエス様も握ってということはありませんのだから。それはみことばを聞いて実行していないという裏返しのようなものなので。以前のものを捨てなさい。

2) マタイ 9:17

また、マタイ 9 : 17 「また、人は新しいぶどう酒を古い皮袋に入れたりしません。そんなことをすれば皮袋は裂け、ぶどう酒が流れ出て、皮袋もだめになります。新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れます。そうすれば両方とも保てます」。どういう意味なのでしょう。ユダヤ人が今まで大事にしていた儀式や律法やさまざまな規則などがありました。全部捨てなさいよ。キリストが来たのだから。それがみことばなのです。なのに、教会に通いながら救われたとハレルヤと賛美しながらも、以前の自分のものを捨てないのんす。実行しないのです。以前、幸せだと思っていたことは未だに幸せなのです。編集されません。イエス様のみことばは何かをこうなさいという動いている行いではなくて、以前の価値を捨てなさいよ。

3) マタイ 6:31-33

マタイ 6 : 31-33 もそういう意味で「ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです」。今まではこれがテーマでした。こういうことをテーマにする人生を捨てなさい。「これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。まず神の国と神の義を求めなさい」。これがイエス様のことばなのです。イエス様のことばはどのように聞いていらっしゃるのでしょうか。

4) 救い以前(キリスト以前)の見解(理解)への疑問

素直に考えてみてください。先ほど天の御国の救いの話をしました。ならば、私が救われる以前に、いのちが与えられる以前に、つまり、キリスト以前に持っていた自分の見解、理解というものは、果たしてその通りでよろしいのでしょうかと疑問を持つのが当たり前ではないのでしょうか。なのに、そうしない。それがみことばなのです。今まで何を幸せだと思っていたのでしょうか。それを本当に幸せなののでしょうか。キリストを知らないときに幸せだと思っていたこと、その知識、理解、見解というものが当てになるものだと思うのでしょうか。クリスチャンがなかなかそこにたどり着かないのです。今まで大事にしていた価値あると思っていたもの、それは罪人のときに、キリストを知らないときに分っていた知識なのです。それを当てにすることはできるのでしょうか。本当にその通りでよいのでしょうか。これがみことばなのです。何が価値なののでしょうか。世界観も同じです。この世界はどんなところなのでしょうか。その通りでよいのでしょうか。それはキリストを知らないときの世界観ではないのでしょうか。当てになりません。それを認めることがみことばを聞いて実行することなのです。となると、自分の生きる理由、生まれてきた理由、存在の理由についてどのように思っていたのでしょうか。それがその通りでよろしいのでしょうか。それは罪人のときの考え方、罪人のときの見解ではないのでしょうか。いくら世の中でそれが最もな話であり、皆が通じ合うような知識だとしても、クリスチャンとしては改めないといけません。これがみことばなのです。今まで何が善で、何が悪だと思っていたのでしょうか。その通りでよろしいのでしょうか。それは自分が罪人のときの見解でしょう。そのときの見方でしょう。救われる以前に持っていた見解

見解、知識ではないのでしょうか。その通りでよろしいのでしょうか。何が善で、何が悪なのでしょう。全部改めなければいけません。今までのそういう考え方、見解、知識、理解などは全部捨てて、否定して、キリストにあって新しく編集しなさいよ。心の貧しい者は幸いです。天の御国を持っているからとおっしゃっているのです。そのようにイエス様のみことばを聞いて、それを実行することは、以前の見解、以前の理解、以前の知識を全部否定して新しく編集していくことが実行することなのです。これはしないまま私はお酒を飲みませんでした。それがみことばを守ることではありません。私たちが以前のものを否定して、キリストによって新しく編集していくときに、びくともしない丈夫な人生になります。でも自分の今までの経験では、天の御国が近づいてきた、このことばの理解もなかなかないし、それができたとしてもこのキリストにあってすべての考え方、価値観について新しく編集して改めることに対しては、クリスチャンがなかなかたどり着きません。それを極力、拒否するような傾向があります。ハレルヤ、救われてありがとうございます。でも、その後は今までの考え方通りに頑張りますよと。誰が悪いのでしょうか。誰が良い人なのでしょう。何が問題なのでしょう。何がそんなに引っかかるのでしょうか。だからクリスチャンであっても心の中に本当の意味での満足がないのです。いつもちょっとした刺激があれば浮かれて興奮してしまいます。興奮の状態のままなのです。安定しないのです。そしてすぐにまた鎮まる。その繰り返しなのです。刺激があることは逆に逆効果なのです。すごいメッセージを聞いてインパクトがあって、そうするとまた興奮する。根本的に安定していないから、それがまた恵まれたかのように。でもそれは根本的に癒されていないことなので効果は長続きしません。すぐに鎮まって、そうすると静かになって。霊的そううつ状態なのです。それからまた刺激を求めるのです。信仰生活は刺激によるものではありません。みことばを聞いて、その通りに実行することです。これがみことばを聞いて実行するという意味なのです。だから私たちが神のみことばを正しく聞いているのか。聞いてそれを実行しているのか。自分で自分自身に問いかけてみればお分かりになるのではないのでしょうか。そこにすべての問題があったと認めれば、これからはびくともしない人生に向かうことができるようになります。

3. 「信仰の薄い者たちよ」

それから最後に、イエス様がおっしゃったさまざまなことばの中でいちばん多くあった内容が、「信仰の薄い者たちよ」ということです。つまり、イエス様のみことばは、今まで通りの生き方ではなくて、今まではイエスはキリストという信仰といのちがないままの状態でなんとか生きていかないといけなから頑張ってきたことなのです。

1) 宗教的、律法的、運任せ

そこから生まれたものが宗教的な生き方なのです。とにかく自分の頑張り次第で結果が伴う、そういう原理に従って、あるいは律法的に何かのルールをしっかり守ることで生きて行くことなんだと。それでもあれでも足りないので運任せみたいな生き方でした。それは悪いとか良いとかの意味ではなくて、そうなるしかありませんでした。神を離れていのちがないので、天の御国とは関係ない悪魔の国を歩いて行くのでそれしか方法がありません。イエス様はそれに対してイエス・キリストを受け入れたのであれば、天の御国を所有して、いのちあるものであれば主がともにおられることが間違いない信者であれば生き方は変わるべきではないのか。信仰によって生きるのだよ。今までは不可能なのです。信じる対象がないから。キリストがないから。今までの生き方と重なる部分があると誤解しないでください。今までにない生き方をしなさいというのがイエス様のみことばなのです。それをその通りに実行しないといけません。

2) 条件、環境、状況に左右され

信仰による生き方でないので、全部が自分中心であり、条件、環境、状況などに左右されるしかありません。そういう生き方でした。それに対してイエス様が信仰によって生きなさい。信じなさい。

3) 人に頼り、つまりき

だから信仰による生き方を知らないときには、人に頼るしかありません。人につまづくしかありません。人に左右される、そういう生き方しかできませんでした。なぜなら信仰がなかったのです。それが信仰という意味なのです。

4) マタイ 8:26、マタイ 17:20、マルコ 8:20-21、

マタイ 8:26 を見ますと、湖で突風にあって沈みそうになった時に、最後にイエス様がおっしゃいました。「イエスは言われた。「どうして怖がるのか、信仰の薄い者たち」。今まで湖で突風が吹いてきたら怖がって大騒ぎになるのが当たり前でした。なぜなら信仰がなかったから。でもイエス様がそこにいらっしゃいます。イエスがキリストであるという信仰を持っていれば話は変わりますよ。それは何でもかんでもいいよとドン・キホーテのようにやるという意味ではありません。でも、イエス様がキリストに間違いなければ、その信仰によって生きるわけです。そうすると、この危険な状況などを見る見方が変わります。でも信仰がないとそこに左右されるしかありません。悪い人がいれば悪いまま影響を受けるわけです。でも、悪い人に悪いと思う以前に、イエス様が私と一緒にいて、いのちあることが間違いなければ、イエスはキリストではないでしょうかと、まず、その信仰に立つということです。となると悪い人を見る見方が変わります。だからその後の導きが変わります。そのときに目に見えない暗闇の力が砕かれます。その生き方です。このような生き方はせずに、みことばを守りました。守った、守っていないという話は意味がありません。イエス様のみことばのいちばんのメインは信じなさいです。マタイ 17:20 も同じなのです。「イエスは言われた。「あなたがたの信仰が薄いからです。まことに、あなたがたに言います。もし、からし種ほどの信仰があるなら、この山に『ここからあそこに移れ』と言えは移ります。あなたがたにできないことは何もありません」。これは自分の願い通りに何でもかんでも信じればその通りになるというドラえもんみたいな話ではありません。イエス様が悪霊を追い出しました。弟子たちがいくらやろうとしてもできなかったわけです。その理由を聞いた時に、信仰がなかったと。イエスがキリストである信仰。そのイエス・キリストの権威が私にあるという信仰。目に見えない霊的世界を信じる信仰なのです。見えるものばかりに惑わされることなく。これがみことばなのです。もう一つ、マルコ 8:20-21 を見ますと「四千人のために七つのパンを裂いたときは、パン切れを集めて、いくつのかごがいっぱいになりましたか。」彼らは答えた。「七つです。」イエスは言われた。「まだ悟らないのですか」。これは言葉を変えますと、まだ信じないのか。オリーブ山で 40 日間、イエス様がお話した後、弟子たちが「私たちの国が再興されるときなのではないでしょうか」と聞いたときに、「それはあなたがたは知らなくてもいいです」。どういう意味なのでしょう。まだ信じないのかということなのです。だからローマの植民地どうのこうのが引っかかるわけです。イエス様は世界福音化を万軍の主として語っていらっしゃるのに聞こえないのです。本当にあなたがたのうちに三位一体の神様がともにおられ、いのちあることが間違いなければ、それを信じなさいよ。あなたがたは絶対に滅びることなどはありません。それ信じないといけません。信じる契約です。自分がどうのこうの以前に、それを先に信じてください。聖霊が内住していらっしゃることを信じて、ならば聖霊が導いていらっしゃることも信じなければいけません。いまも礼拝を捧げるこの時に、死の影の谷を歩いているときでも、死の影の谷を見る前に聖霊が導いていらっしゃることが間違いなのではないのでしょうか。だからそれを信じないといけません。それから、次のことを考えるわけです。私たちはこれから信仰によって生きるわけです。パウロは言いました。義人は信仰によって生きる。信仰に始まり、信仰に進ませられるからです。キリスト教は信仰によって進むものなのです。そのときの信仰というのは信念とは違います。世の中で言われている信仰、信仰ということばと同じ概念ではありません。

5) イエスがキリスト、契約のみことば、聖霊の力

縮めて申し上げますと、イエスがキリストであることを信じることです。死の影の谷を歩いているそのときも、刑務所の中でも聖霊が内住していらっしゃるはずなのです。自分は自分ではなくて、神がともにおられる自分なのです。聖霊の導きを信じないといけません。そして、聖霊が力強く働くことを信じないといけません。となると考え方、見方が全部変わります。信仰によって生きる。なので、信仰によって生きるためには、自分の考えや人の声ではなくて、神のみこころなのかどうか、それだけがテーマなのです。神のみこころを探るためには講壇のメッセージを聞きながら、それを黙想して神のみこころ、神の契約がなんなのか、それが間違いなければ信じることです。必ずその通りになりますので。私の内側に聖霊が内住して、聖霊がそうなるように導かれるし、そうなるように力強く働くので、それを信じることです。信じる人は祈ります。心配しないで、しゃべらないで、悩まないで祈るのです。これがイエス様のみことばです。信じなさい。信仰によってこれから生きていきなさい。このように信じて、信じるとつぶやかないで、心配しないで、思い煩わないで祈るのです。集中するのです。これが生き方です。でも、こういうこ

とをしないまま、みことばを守ったのか、守ってないのか、どうなのか... そうなるとパリサイ人になるしかありません。

だから最後に皆さん、自分がキリストに従う理由は何なのかということを自分自身に問いかけてみましょう。それから、キリストのみことばを通して、自分は本当にみことばを聞いて実行しているのかどうかをチェックしてみましょう。キリストにあるいのちの祝福に私が預かっているのだと確信すること、これが実行です。そして、そのいのちを中心にして、自分の人生のすべてを再編集すること、これが実行することです。自分の過去も今現在も未来も価値観も全部再編集することです。皆さん、過去、どのようなつらいことがあったでしょうか。単純につらいことではなくて、このいのちを得るためのプロセスだったのです。そのように編集しないとはいけません。これがイエス様のみことばです。そして、この信仰によっていのちを味わい伝える信者になること、これがみことばです。これがみことばを実行することです。信仰によって生きるということは、与えられているいのちを、主がともにおられる祝福を味わうということです。これがみことばです。味わうと伝えることになります。

結局、全部まとめると、イエス様のみことばの結論は、証人となることです。他の人におあかしなさいよ。なぜそれができないのか。まずちゃんとみことばを聞いて実行していないからです。いや、30年間、20年間、みことばを聞いて毎日聖書を読んでいますよと。パリサイ人は私たちよりもっと読みます。でも聞こえないのです。聞いたとしても実行しないというより実行できないのです。その通りに聞こえないから。ぜひみことばに対してのすべての誤解が全部崩れて、みことばを聞いて実行することはなんなのか、それにフォーカスをあわせて、ぜひみことばを聞いて実行する信者になりましょう。私たちのためにおっしゃっていることなのです。それで結果的にびくともしない証し人として残りの生涯を歩いていきましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。神様がみことばを与えられたにもかかわらず、サタンはそのみことばでさえ曲げて、それを実行することができないように惑わしています。それによく気づいて、今日のメッセージを通してここにいるひとりひとりが神様のイエス様のみことばを聞いて実行することは何なのかということを正しく理解して、本当にその通りに行い、びくともしない証し人として用いられるようにひとりひとりを祝福してください。神のみことばが聞けないように実行できないように惑わすすべての誘い込む霊の力がイエス・キリストの御名によって縛り上げられようにお祈りいたします。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。